

## 中四国アド連30年度総会「開会あいさつ」

今年も、早6月に入り、山々の緑が一層色濃くなり、田植え他、自然も人々も躍動感あふれる季節となりました。皆様、ご健勝にて、青少年育成運動にご精進のことと思います。

ご多用の中、この30年度定期総会ご出席いただき、この一年の活動を振り返り反省しながら、新しい30年度の計画・予算を立てることが出来ますこと、誠に感謝に耐えません。

早いもので、私が会長に就任させていただいて、丸3年が経過しました。その間、アドの認知度が低い。私たちの立位置が不明確。後継者の養成が急務。など様々なご意見を頂いて参りました。これに答える為には先ずは組織の実態を掌握・理解することが必要と考え、我が鳥取県を冷静に観察しながら全国を見渡してみました。私が育成運動の創始者である末次先生から学んだことを物差しにして見つめると、課題山積であることが分かりました。

そのため、

先ずはマンネリ化した育成運動を見直し、新しい旗、我々が目指すべき新しい旗を建てる事。

第2にアド運動が目指すものを再確認して、周囲に理解して頂けるよう自ら行動すること

第3に何と言っても後継者の養成は不可欠である。

第4に組織の活性化を図るために、情報のパイプを太くして、共有し、切磋琢磨しあうこと。

第5に県民会議と連携して国民運動の再興をはかること

などが浮かんできました。

それが、「ありがとう一日100回運動」であり「子どもが伸びるチャンスを活かす運動」であります。

国民会議の結成宣言を引用して、我らの基本目標を確認し、青少年を取り巻く社会や青少年の現状を認識しようとしたのもこの為であります。

また、本当に受講生が集まってくれるか、充実した内容で実施できるか。不安を一杯抱えながら、養成講座を実施・拡大もしてきました。

内閣府の子ども・若者白書に育成ボランティア団体として掲載・紹介して頂いたのも、HPを開設し、会員バッチや名刺をつくり紹介パンフレットやシール・のぼり旗をつくり、活用をお願いしたのもこのためであります。

更に、法律制定要望などとんでもないと厳しいご批判をいただきながらも「青少年健全育成基本法」の制定要望運動に取り組んだのも、この為であります。

中々、目に見える成果、躍進しているほどの実感はありませんが、確実に前進しつつある姿は見てきたと考えております。

今年度で、私の会長任期が終わります。私も精魂を込めて、長い時間を掛けて議案を作成し、役員会でもご議論を頂いたつもりであります。どうか、忌憚のないご意見をいただき、より一層青少年育成運動が進展し、全日本のモデルとなる総会となりますよう、お願いして開会のごあいさつと致します。